

訳者の言葉

私の出身地は大分県宇佐市で、名古屋大学土木工学科、同大学院にて、水工学を専攻し、河川の蛇行研究で修士号を取得後、一九七一年にアメリカ合衆国州立アイオワ大学博士課程に入学し、そこで多くのことを学び博士の学位を取得しました。その後引き続き、アイオワ大学水理学研究所で、水工学、河川工学、土砂輸送、水理構造物、原子力発電冷却系統等の研究を続け、二〇〇二年にはアイオワ州のミシシッピー河沿いに河川環境研究所の設立に加わりました。このプロジェクトでは、ミシシッピー河とその支川に生息する絶滅の危機に瀕するヒギンズアイ貝について生物学の専門家とともに連邦政府水産試験所で育成された幼年貝を良い環境の場所に放流し、増殖に力を注ぐなど、多くの重要な研究成果を得ました。私は、二〇〇八年に三十年余アイオワ大学水理学研究所での勤務を終え退官しました。

退官後は、もっぱら竜巻被害地の瓦礫片付けのボランティアとして、パークスバーグ（二〇〇八年アイオワ州）、フィル・キャンベル（二〇一一年アラバマ州）、ジョプリン（二〇一一年ミズリー州、二度訪問）、メアリーヴィル（二〇一二年インディアナ州）、ムーア（二〇一三年オクラホマ州）にて各州からのボランティアとともに汗を流しています。

この本の編集責任者であるジョン・F・ケネデイ水理学研究所長（所長歴…一九六六—一九九一）は、私の大学院時代の指導教授であり、私が研究者となって以来、多くの共同研究を一緒に行ってきました。彼は、アルバート・アインシュタインの長男、ハンス・アルバート・アインシュタインの友人であったこと

から、ハンス・アルバート・アインシュタイン夫人であるエリザベス・ロボズ・アインシュタインの要請で、彼女が執筆した『ハンス・アルバート・アインシュタインの生涯と二人の生活』と題する回想録の編集に携わりました。ケネディ所長は、五十七歳の若さで癌で亡くなる直前にこの本を出版することができました。ケネディ所長は日本に多くの知己を得、度々日本を訪問しました。日本の文化をこよなく愛し日本の水工学の水準の高さを評価し、亡くなった年の二月にもケネディ所長がアイオワ大学水理学研究所のヤコブ・オドガード博士と共同で考案した河川のベーン工等、河川構造物について、日本各地で現地指導をし、また特別講演等を行いました。

ハンス・アルバート・アインシュタインが、河川の流砂に関する世界のリーダーであり、私は学生時代にアインシュタインの河川における掃流砂量式のお世話になったこと、またケネディ教授が編集責任者であったことなどから、ハンス・アルバート・アインシュタインの生涯について夫人が書かれた回想録を、私は日本に紹介したいと常々思っていました。四十年以上もの間、手紙以外日本語で正式な文章を書いていなかった関係もあり、大変迷い、この思いを友人である中央大学研究開発機構の福岡捷しやうと二教授に伝えたところ、私と一緒にアインシュタインの本を日本語に翻訳することを快く引き受けてくれました。彼は、私がアイオワ大学に行く数か月前にアイオワ大学水理学研究所で博士号を取得し、現在、中央大学で河川の研究を続けています。彼は、ハンス・アルバート・アインシュタインと同じ分野の研究をしており、河川の水利と河道設計に関する世界的リーダーでもあります。

ほぼ二年に及ぶ二人三脚での努力が実り、ようやく翻訳本の出版に漕ぎ着けました。個人の名前を控えますが、本書に出てくる多くの東欧そして西欧の地名、人名の日本語訳に関して、たくさんの方々の教えを頂きました。また、出版許可や写真の提供などアイオワ大学水理学研究所ならびに職員の方に大変お世話になりました。私ども二人の共訳者は、故ケネディ所長から教育並びに研究のすばらしさを教わりました。この

翻訳書を故ケネディ所長に捧げ、心からのお礼といたします。

最後に技報堂出版の石井洋平氏には出版にあたって大変なご尽力を頂きました。記して謝意を表します。

二〇一五年五月末日。



J. Nakato

中藤達昭